

平成 29 年度第 2 回練馬区国際交流・多文化共生事業推進連絡会 要点記録

- 1 開催日時 平成 30 年 3 月 20 日（火）午前 11 時～正午
- 2 場所 練馬区役所本庁舎 20 階交流会場
- 3 参加者 ボランティア日本語教室等 23 名、地域振興課長、国際・都市交流課長、国際・都市交流担当係長
- 4 事務局 2 名
- 5 内容および配布資料
 - (1) 練馬区の事業について
 - (2) 各参加団体から
 - (3) 今後の連絡会について

<配布資料>

資料 1 練馬区における多文化共生推進事業（平成 29 年度実施結果）

資料 2 練馬区における多文化共生推進事業（平成 30 年度予定）
- 6 発言内容（要旨）

（国際・都市交流課長）挨拶

平成 30 年度の当課の取り組みとしては、区長ならびに区議会議長が友好都市である海淀区を訪問する。練馬区独立 70 周年記念式典において、海淀区議長に祝辞をいただいたことに対する答礼と今後の交流に関する意見交換がなされる予定である。

イプスウィッチ市との交流については、これまでと同様に学生の受け入れを行っていく。

（地域振興課長）挨拶

第 2 回目の国際交流・多文化共生事業推進連絡会では今年度の多文化共生事業の実績や、今後の展望について話していく。2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、区として国際交流および多文化共生に向けた取り組みを行っていく。その一環の取り組みとして、平成 31 年度には国際交流のつどいを発展させたフェスティバルのような催しを実施する予定であり、平成 30 年度の国際交流のつどいはそうしたフェスティバルを見据えた催しとしていきたい。国際交流・多文化共生事業推進連絡会においては、現場で直接外国人住民の声を聞いている皆様から活発なご意見をいただき、フェスティバルをはじめとした今後の施策に生かしていきたい。

（事務局）

この会議で司会進行をしたい方はいらっしゃるか。希望者または推薦したい方がいらっしゃらないということであれば、このまま引き続き区側で進行させていただく。(希望・推薦ともなし)

(事務局)

資料1 練馬区における多文化共生推進事業(平成29年度)および資料2 練馬区における多文化共生推進事業(平成30年度予定)に沿って説明

(事務局)

各団体からご意見等いただきたい。

(参加団体)

区の制度として翻訳に対応していただけるか。母国の中学校を卒業して、日本の高校に入学する際に母国における中学校の在学証明書が必要になる。この証明書を日本語に翻訳する手段が何かあるか。

(事務局)

練馬区の外国語通訳ボランティアは区の担当部署の関係する場合のみ対応ができる。また、翻訳には対応していない。

(参加団体)

中国出身の学生であれば、日中友好会館に依頼してみてもどうか。事情を説明すれば対応していただけるのではないかと。

(参加団体)

国際交流サロンを行う際に、区役所の地下食堂を開放していただけないか。また、多文化共生事業に多くの外国人に参加していただくために集客の方法を区として考えているのか。

(事務局)

集客については平成30年度4月から4か国語で区の行政情報を発信するフェイスブックページを開設する予定。地下の食堂は民間の事業者へ委託して運営している。ある程度の集客が見込めれば土曜日の開放も検討の余地はあると思うが、利益が上がらなければ事業者として従業員を従事させるのは厳しいと考える。

近隣のレストラン等について多言語でお知らせする等の工夫はできると考えている。

(参加団体)

日本語ボランティアの養成にもう少し力を入れても良いのではないかと考えている。

また、国際交流のつどいの実施目的が「交流」だけでいいのかとも考えている。外国人が抱える問題は非常に幅広いので、それぞれの問題を解決するための場として活用しても良いのではと考える。

この連絡会においても様々な分野の団体が参加しているので、これらの問題をそれぞれの知恵や知識を持ち寄って補うことはできるのではないかと考えている。様々な団体がこれらの問題について議論する場が他にもさらにもあっても良いのではないかと考えている。

(参加団体)

国際交流協会が実施していた国際交流のつどいの手伝いをさせていただいていたが、当時出展して最も好評だったのは各国の食べ物と民族衣装の試着。フェスティバルでもこの2つは出展するのが良いかと考える。出展する団体等について、連絡会のそれぞれの団体が意見を出し合えばいいのではないかと考えている。

(事務局)

30年度のつどいは、31年度のフェスティバルへのステップとなる催しになるので、予算もこれまでとは少し変わっている。食べ物を紹介することも検討し予算化されている。今後フェスティバル実行委員会を通して皆様からご意見をいただきながら進めていく。

(参加団体)

教育シンポジウム等の催しを周知するのに何か方法はあるか。練馬区の外国人住民の方にお知らせしたい。

(事務局)

ホームページ等でリンクを貼る等の対応はできると考える。

(参加団体)

ボランティアの養成については、これまでのボランティア養成講座の実施方法だと現在の人数の養成が限界だということは理解している。5名や10名という少ない人数でも良いので少しでも増やしていただく方法を区に検討していただきたい。今のままでは今後人手不足が深刻化すると考える。

(事務局)

ボランティア養成講座の実施方法についてはこれまでも様々なご意見をいただいているので、検討している。練馬区の養成講座受講生のボランティア日本語教室への定着率

は非常に高いと考えている。他の自治体の同じような講座では練馬区のような高い定着率になっていない。講師の丁寧な指導と丁寧な教室と受講者のマッチング、各教室が新たなボランティアの受け入れ態勢を整えていただいていることが練馬区の高い定着率の要因と考えている。練馬区でも過去には4~50人に参加いただき丁寧なマッチングは行わず養成講座を運営していたこともあったが、当時教室に定着したのは半分にも満たない程度だった。なのでどうすれば定着する方が増えるのか、区としてもまだわかっていない。継続して活動する方が増える方法を皆様からご意見いただきながら検討していく。

(参加団体)

土曜日の夜などに活動することのできる方を養成する講座があってもいいのではと考える。

(事務局)

実施時間帯も含めて検討していく。

(参加団体)

長く続けていただけるボランティアを養成するためには、現在のように長期間大変な学習したという経験を刷り込ませることが不可欠なのではないかと考えている。

ただし、東京都が日本語学習支援者において必要な資質等の指針が示されたこと等もあるので、そちらを考慮しながら養成講座の内容を少しずつ変化させていくことは必要と考える。

(参加団体)

各教室に配属した方の中でやめられた方の人数やその方々を別の活動や教室に繋げる仕組みはあっても良いのではないかと考える。

(事務局)

養成講座を修了された方には日本語講師ボランティアに登録していただくことをおすすめしている。登録をしていただければ、各教室からのメッセージ等をお送りできるので、1つの教室で活動が困難になった場合でも他の教室に繋げることができる。

(参加団体)

教室を辞退した後に、他の教室に繋げるためには教室同士の連携が不可欠と考える。